

ト発

# IT駆使 電力量見ながら使う



④ 学内の電力使用状況がリアルタイムで見える多機能携帯端末を手にする東京大学大学院の江崎浩教授



⑤ 大学の節電計画について語る東大TSCP室の磯部雅彦室長。手前のデスクトップパソコンは震災後使用していない。いずれも文京区で

「電力使用状況を把握しないまま省エネに取り組む事業所は、速度計のない車を運転するようなもの」  
工学部を舞台に二〇〇八年から「電力見える化」の実証実験に取り組む大学院の江崎浩教授は、こう力説した。「見える化」は、学内

東京大学が、電力消費量「都内」だと、やり玉に挙げられている。電力不足が心配される夏は「すくそ」。世界に誇る先端研究の拠点で、頭脳を結集して始まった「東大流節電術」とは。

## 東大流 節電術

6万戸相当消費「都内」



電力使用量が都内最大級の東京大学本郷キャンパス＝文京区で、本社へ「あさづる」から

の消費電力量の推移をインターネットのサイト上にリアルタイムで表示する。学生や教職員は、パソコンや、スマートフォンなどの画面で、建物ごとの一時間当たり電力量を把握できる。電力を使い過ぎていくことに

気がついた人が、電源を落とすことなどで、節電効果が期待される。今夏までに全学で導入する。東大の二カ月の平均電力量は、一般家庭六万戸分に相当する約千八百万

ランドと東京デイズ二一の合計を上回る。約百棟の建物が集まる本郷キャンパスは、不名誉にもCO<sub>2</sub>排出量が「都内」だ。東大は東日本大震災発生を受け、必要な研究や診療を除いて、エアコン

停止や消灯を徹底するようになった。震災から約二週間は、次世代航空機関発のための極超音速風洞やスーパーコンピュータなど、電力を大量に使う設備を止めた。その後、原則として土日や夜間のみ稼働するようにした。寒さの残る三月は、教職員たちは部屋でもコートを着ながら仕事をした。こんな涙ぐましい努力で、従来の半分近くに電力使用量を減らした。

政府目標の15%を上回るピーク時30%の節電を目指す計画は、十八日、学内に通知された。メニューは計十四項目。最先端の「見える化」を別にするれば、身近な対策ばかりだ。実験用以外の冷蔵庫の使用停止、デスクトップパソコンからノートパソコンへの置き換え、エアコン温度は二八度、トイレの温水洗浄機能解除。本年度は、全体でも25%の使用電力量削減を目指す。

しかし、長期にわたり最先端の研究設備の利用を制限しては「世界との競争に立ち遅れるだけでなく、教育面でも大きな損失となる」との懸念は根強い。そこで、研究と教育を継続するための節電計画を立てた。

「節電のお手本を示すことで、社会に貢献したい」。こう語るのは、東大サステイナブルキャンパスプロジェクト(TSCP)室長の磯部雅彦教授。「東大流節電術」は、家庭でも参考にしたところだ。

◆東京都によると、オフィスや商業施設といった工場などの生産拠点を含まない業務部門では、2007年度の統計でCO<sub>2</sub>排出源の76.8%を電力が占めた。CO<sub>2</sub>排出量の多い事業所を見ると、電力消費量の多い大型コンピューターを使うオフィスビルや、深夜も休まないテレビ局などのマスコミ、ホテルなどが目立つ。

### CO<sub>2</sub>排出量の多い都内の主な施設

※(2009年度・業務部門。都の資料から。単位はト)。東大は1位)

▽東大本郷キャンパス	9万9354
▽羽田空港第1、第2旅客ターミナル	7万5591
▽東京都庁	2万6882
▽NTTドコモ品川ビル	5万284
▽防衛省市ヶ谷庁舎	4万8258
▽日本放送協会	4万3336
▽サンシャイン・シティ	5万6782